

科目名	公民 I Civics I			担当教員	山岡健次郎		
学年	2年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15220016	単位区別	履修
学習目標	自己と社会との関係性を倫理的観点から考察していく。そのさい、「他者」、「自然」、「宗教」、「科学」といった問題性に着目する。過去の哲学者・思想家の思索に触れることで、多様なものの見方を身につけ、具体的な問題を自分自身で考える力を養うことを目指す。						
進め方	教科書および担当教員の作成する資料をもとにして、講義形式で進める。 テーマを設定し、討論も交えながら、倫理的問題に対する視角を深めていく。 なお、定期試験のほかに適宜レポートなどの課題も課していく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 「倫理」とは (2) 2. 青年期の課題と自己形成 (2) 3. ギリシャ思想・ソクラテス (2) 4. ギリシャ思想・プラトン (2) 5. ギリシャ思想・アリストテレス (2) 6. 生命倫理 (2) 7. 脳死と臓器移植 (2)			自己への問いかけを通して、自分自身を見つめ自分たちを取り巻く様々な環境の中で、他者と共に生きる大切さを理解させる。 A1:3  哲学の起源をたどる。 A3:2			
	[前期中間試験] (1)						
	8. 答案返却・解答 (1) 9. 宗教とは何か (2) 10. ユダヤ教 (2) 11. キリスト教 (2) 12. 仏教 (2) 13. イスラム教 (2) 14. 文化と宗教 (1) 15. オリエンタリズム (3)			古代宗教に対する理解を深める。 A3:1,2  現代社会の中で生じている様々な倫理的課題を理解する。 A1:1,2 A3:1,2			
	前期末試験						
	16. 答案返却・解答 (1) 17. ヒューマニズム (2) 18. 経験論と合理論 (2) 19. デカルト (3) 20. モラリストたち (2) 21. 自然と科学技術 (2) 22. リスク社会 (3)			近代科学の誕生と科学の発展がもたらす問題について考察する。 A3:1			
	[後期中間試験] (2)						
	23. 答案返却・解答 (1) 24. 「正しさ」の根拠を問いなおす (2) 25. 功利主義 (2) 26. J・ベンサムと J・S・ミル (2) 27. カントの義務論 (3) 28. 差別や偏見のない社会へ (1) 29. 永久革命としての民主主義 (2)			善く生きることの意義について考察する。 A3:1			
	後期末試験						
	30. 答案返却・解答 (1)						
評価方法	定期試験 (90%)、提出物 (10%) によって評価						
履修要件	特になし						
関連科目	公民II (3学年)						
教材	教科書：『倫理』東京書籍						
備考	特になし						